

## 事業番号 22 城北川改修事業

「当該事業における環境分の取り扱いについて」

## 【治水経済調査マニュアル（案）上の定義】

&lt; 便益 (B) &gt;

治水施設の整備による洪水氾濫被害の防止効果

※環境分にかかる便益の記載はありません。

&lt; 費用 (C) &gt;

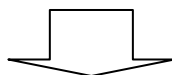
治水事業着手時点から治水施設の完成に至るまでの総建設費、及び 50 年間分の維持管理費

※建設費には、本工事費、付帯工事費、用地費、補償費、間接費、諸費が含まれる。

## 【寝屋川流域総合治水対策事業の費用便益比】

 $B/C=6.59$  (総便益  $B=85,018$  億円、総費用  $C=12,893$  億円)

※総費用については、寝屋川流域全体の事業費を計上しており、城北川改修事業の事業費もこの中に含まれている。



## 【城北川改修事業 事業費 (540 億円) 内訳】

治水分：約 534 億円

環境分：約 6 億円：親水整備（遊歩道整備等）7,151m にかかる工事費用を計上



城北川改修事業全体の約 1%、寝屋川流域総合治水対策事業全体の約 0.05%

※仮に総費用から城北川改修事業の環境分を差し引いても  $B/C$  はほとんど変わらない。



◎以上を踏まえ、該当部分を別紙 1 および別紙 2 のとおり修正します。